

ぎ、優れた業績をあげ、我が国のプラズマ物理学、宇宙工学、核融合工学の発展に大きく貢献されました。東北大学では高速プラズマ流の発生と磁気ノズル加速に取り組み、それまで実現が難しかった超音速プラズマ流を準定常的に生成する装置を開発し、プラズマ流中の乱流抑制やアルヴェン波動加熱による電気推進機の高性能化などの研究を推進されました。

先生はこのような教育研究活動のかたわら、日本学術会議、日本学術振興会、文部科学・学術審議会の委員、さらに核融合科学研究所、原子力研究開発機構、宇宙航空研究開発機構の委員会の要職を歴任され、我が国の学術振興と科学技術の発展に寄与されるとともに、国際的にも純粋・応用物理学国際連合第16委員会の日本委員としてご活躍されました。また、プラズマ・核融合学会

の理事および評議員、電気学会東北支部の協議員および代表評議員、東北支部電気教員懇談会の会長として諸学会の発展に貢献されるとともに、2004年より東北大学の評議員、また合気道部の部長として、本学の教育研究活動の活性化に寄与されました。

先生はいつも学生と同じ目線に立って研究と教育に取り組んでこられました。悩みを抱えた学生に接してはじっくりと耳を傾けられ、また先生のご指導は情熱にあふれ、夜半を過ぎることもしばしばでした。

先生はご退職後、電気通信研究所ブロードバンド工学研究部門の客員教授として、民生用小型合成開口レーダの開発に新たに取り組まれています。今後とも後進のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。(安藤 晃 記)

## 海老澤丕道先生ご退職

情報科学研究科応用情報科学専攻の教授として研究と教育にご尽力され、昨年度の電気情報系運営委員長を務められました海老澤丕道先生が、平成19年3月31日をもって定年により退職されました。



海老澤先生は昭和19年3月30日長野県木曾町福島に誕生されました。長野県松本深志高等学校、東京大学理学物理学科、東京大学理学系研究科物理学専攻の修士課程および博士課程を経て、昭和46年に、理学博士の学位を取得され、昭和46年4月に東北大学工学部応用理学教室に助手として採用されました。コーネル大、南カリフォルニア大、仏国高等師範学校などのそれぞれ1年間の外国出張を経て、昭和62年10月に工学部助教授、平成3年11月に工学部教授に昇任され、基礎工学教室応用数学講座を担当されました。平成5年4月情報科学研究科発足と同時に情報基礎科学専攻情報応用数理学IIを担当され、さらに、平成15年4月に応用情報科学専攻が新設されたからは物理フラクチュオマティクス論分野を担当されておられます。この間、平成12年4月から1年間東北大学副総長(学務担当)特別補佐を、平成18年4月から研究科副研究科長(教務担当)をそれぞれ務めておられます。

先生は物性物理学に関して超伝導から超流動、量子電気伝導現象にいたるまで幅広く数多くの業績を残され、低温物性における理論研究のリーダーのひとりとして学

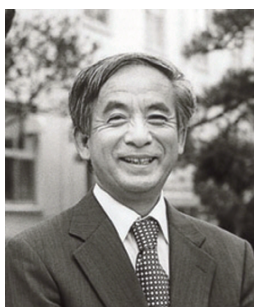
問分野の発展に尽力してこられました。まず、磁場のもとでの固体中の電子状態の理論に興味をもち、久保理論に基づく電気抵抗の理論を構築されておられます。これにより超伝導におけるホール効果の微視理論に成功され、さらにアンダーソン局在のかかわる超伝導に関する研究、高温超伝導の発現機構の探求に関連した輸送現象の解明へと展開されました。また、メソスコピックと呼ばれるスケールのシステムサイズをもつ超伝導の研究を進められ、コンダクタンスの統計的な変動の普遍性についての新しい知見を生み出されておられます。一方、ヘリウム3の超流動が実験的に発見されるや、多くの理論計算を行い、その後の発展の基礎を築かれました。

また、先生は学内の管理・運営において数多くの委員会に関わられました。なかでも学生生活協議会では、平成10年度第3期学寮専門委員会委員長として歴代の記録となる3ヶ月間に30回の会議をこなされ、学生寮の電気料金負担問題の解決に導かれたこと、留学生の受入れに長年にわたって力を尽くされたことは顕著な貢献であります。

先生はご退職後も工学部教育相談室に相談員として勤務され、引き続き本学の教育に尽力されておられます。同時に「超伝導ナノファブリケーションによる新奇物性と応用」というCRESTの研究チームのメンバーとして、ごく小さく作りこんだ超伝導と常伝導の金属や化合物において期待される新しい現象の研究を継続されるなど、定年後も精力的にご自身の研究を展開されておられます。先生のご健勝とますますのご活躍をお祈り申し上げます。(田中和之 記)

## 杉浦 行先生ご退職

電気通信研究所人間情報システム研究部門通信環境工学研究分野の教授として研究と教育にご尽力されました杉浦行先生が平成19年3月31日をもって本学を定年により退職されました。



先生は、昭和18年10月12日に福井県でお生まれになりました。昭和43年3月に大阪大学大学院工学研究科応用物理学専攻修士課程を修了され、同年郵政省電波研究所(後の通信総合研究所、現在の独立行政法人情報通信研究機構)に入所されました。同研究所では、電磁環境研究室長、校正検定課長、標準測定部長、関東支所長、電磁波技術部長を歴任され、平成9年には総合研究官に就任されました。この間、平成8年には放射電磁妨害波の測定法に関する研究により東京工業大学より工学